essais こころみ　2022年3月

2022年3月1日（火）　曇→雨

今日から3月、空は曇り、午後から雨の予報。昨日は雲一つない青い空、日傘のいる陽ざし。今日雨がふり、春がまた近ぐく。

ー　能力ではなく意欲　ー

そういえば、最近あまり見かけない、話を茶化す人。わたしの回りがそうなのか、一般にもそうなのか。

一般にもそうなら、茶化すほど会話をしていないのかもしれません。カフェでも電車の中でも、一緒にいながら互いにスマホを見っぱなしという光景も今では違和感がなくなりましたから。

『コミュニケーションは能力の問題ではなく、意欲の問題』と「平田オリザ」が教師対象のワークショップで話ていました。たしかに！

『現在の国際社会が求めるのは、〈協調性〉よりも〈社交性〉。考えは違って当然、でも社会をつくるために一緒に事をやる姿勢が必要。友人にならなくても、敵になるのはやめましょう』（平田オリザ）

この〈敵になるのはやめましょう〉がミソですね。そのためにも、〈考えが違って当然〉を自然に許容できなければ、なかなかそうはならないでしょうね、人の心は。

「仲たがい」（仲がわるくなること）という言葉がありますが、わるくなってもいいんじゃないかと個人的には考えています。会話を重ね、交流を続けるうちに、「文化が違う」という場合も多々あります。

価値観や行動様式があい入れなくて、弊害が多いなら、疎遠になるもわるいことじゃない。ここで大事なのは、互いにそれぞれの世界があると了解して、〈恨みっこなし〉と心得ること。

まさに、『友人にならなくても、敵にはならない』。これは社会的知性として大事なメッセージです。とくに今の国際情勢を目の当たりにするにつけ、重い言葉です。

2022年3月3日（木）晴れ

今朝起きてストーブはつけなかった。それほど寒くなかった。外へ出ると風はつめたかったが、よく晴れそうな朝の空。今日は一日晴天のよう。

ー「話す」に未来性 ー

もうずいぶん前から「雑談」の話し方を指南する本が出ています。本の広告は日経でいつもチェックすることになりますが、最初にこの広告を見た時は、“とうとうそういう時代になったか…”。広告は社会や時代を

もともと「空気を読む社会」、学校教育の問題や、デジタルツールに広がりなどが複雑にからまり、いつの頃からか、企業の求める人材に「コミュニケーション能力」が上位になりました。

そこで若い人の中にはハウ・ツーを一生懸命取り込もうとする人がいます。クライアントの会社の採用試験に立ち合った時、たぶん面接試験のハウ・ツーを頭に叩き込んできたのでしょうが、ある場面でフリーズし

本人からすると全く想定外の、それもごくごく何気ない質問に応えられない。例えば、本人の住まいが京都だというので、「京都、いいですね、散策によく行くんですよ。でもいつも同じところばかりで…、どこかお勧めのところ、ありませんか？」

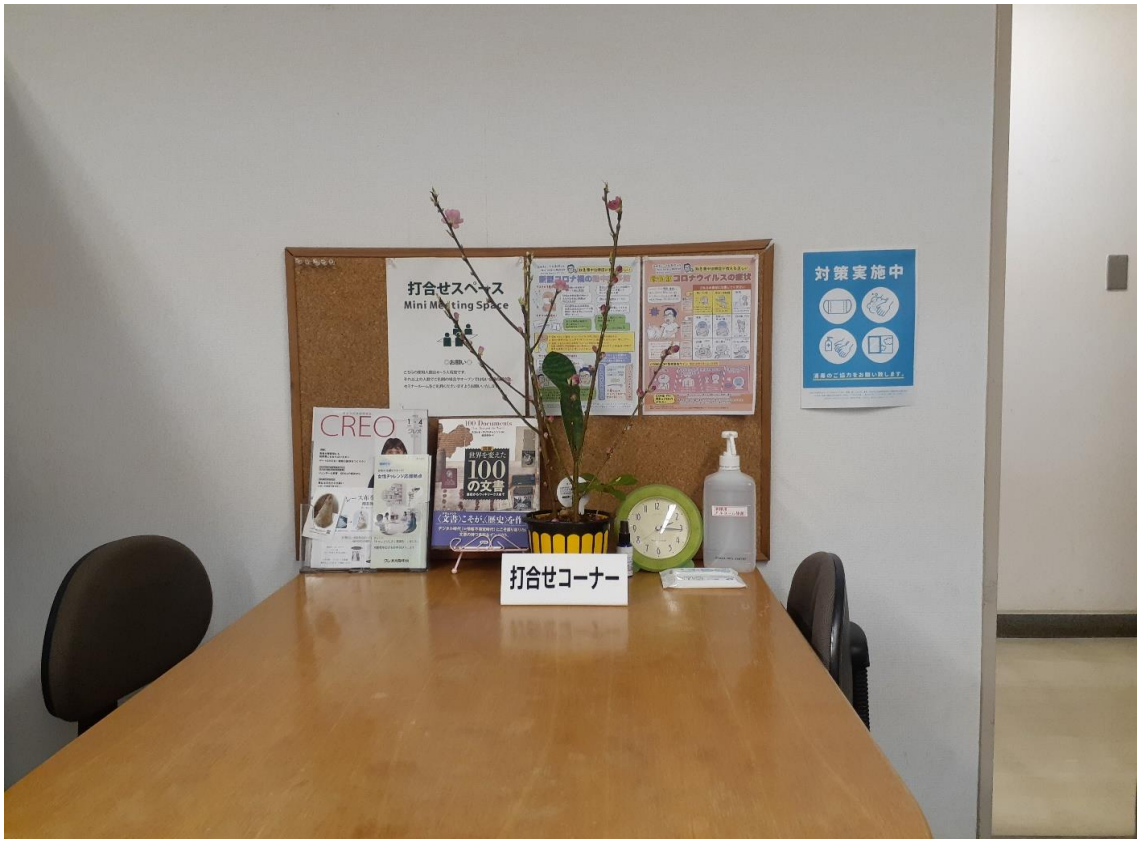
ここで何か返したら、本人の資質の一端が見えるでしょうし、返事しだいで話しがまた発展します。結局不採用でた。

多くの場合、何気ない会話の場面で、大きな実りがあります。個人的にそういう経験がたくさんあります。極めつけは、こうして独立したことで

「自分でマネジメントすればいい」。先方は会話の中でごく当たり前のようにと言ったのです。その時は反発したけど、翌年の終わりには、その言葉を思いだい、決意していたのでした。

人と話す。そこには互いの人生をクリエイトする芽も埋まっている。それほど未来性をともなったものなのですよ。言葉のやりとりができない、雑談ができない、さて、どうしましょう。

（お昼、駅ナカの「フレスコ」で桃の枝を買って、花瓶代わりのボトルに入らないものは、植木鉢に！）



2022年3月5日（土） 晴れ

朝から本当によく晴れているが、花粉と黄砂注意報が昨日から出ていた。たしかにちょっと靄がかかったような街なか。来週はさらに花粉が多いとか。春本番がやってくるけど、ちょっと…という感。

― 雑談 ―

もう10年ほど前のことですが、あるセミナーで想定外の質問を受けたことがあります。「雑談ができないんですけど、どうしたらいいでしょう

経営におけるコミュニケーションの重要性を話したので、それでかもしれませんが、雑談のハウツー本を広告でみて間もなかったので、身近に本当にそういう人がいるんだと思ったしだいです。

その時なんと答えたか、はっきりは憶えていませんが、周りのことに関心を持ちましょう、自分のことも少し開示しましょう、そんなことを言ったはずです。

雑談は、だいたいは、相手に近況を尋ねたりとか、当日の天気、直近のニュース、ちょっとした出来事とかから入るのが一般的。

近況を尋ねられるような相手でなければ、「ところで、春めいてきましたね」と言えば、相手は「そうですね、ほんとに」と応えてくれるはず。

そしたら「季節がよくなっていいんですけど、でも陽ざしに弱いものですから、この時期から日傘をさすんですよ、わたし」。

すると相手は何か返してくるでしょう。そんな風にして雑談はできていくと思いますが、そうしても続かないなら、相手に続けるつもりがないと考えればいい。

無理をして雑談する必要もないでしょう。みなそれぞれに異質な存在、コミュニケーションにギャップは付きものです。誰彼と通じ合えると考えること自体がある種、不遜。

ギャップを埋める努力をしつつ、前向きな諦めも必要でしょうね。

2022年3月9日（水） 晴れ

朝一番はうすい雲が広がっていた。でもそれもとれて蒼空がみえてきたよう、窓の外のビルに陽が差している。今日もよい天気、花粉さえなければと思うこの季節。

－ 話し合う －

『友人にならなくても、敵になるのはやめましょう』（平田オリザ）、これは本当に意味の深いことです。マクロな局面でも、ミクロな場面でも、広くあてはまる呼びかけです。

「争ってもいいことは何もない、とにかく感情的にならず、丁寧に話し合っていきましょう」と、たまに助言する時があります。

仕事上の相手先との関係で、あるいはプライベートで身近な人のために仕事をおもうようにできないなどという悩みの時です。

感情的にならずと言っても、それが難しいと思われるでしょうが、そうでもありません。話し合う前に、まず自分の伝えたいことを〈書く〉、書面にする。これが、自分の感情と、話し合いの場面を、鎮めてくれます。

よく一つ個人的な例を出します。10年ほど前に法事のやり方を変えようと考えた時、きょうだいで一番上のわたしが決めれば、その通りになるわけですが、それでも「きょうだい会議」を召集しました。

その前にはA4一枚に、なぜ変えたいか、どように変えるかを簡潔な文章で表して、きょうだいの人数分コピーしておきます。この〈書く〉段階で、頭で整理されるので、気持ちが落ち着くのです。

「会議」の当日には、コピーを皆に配り、話しだす。皆はおのずと書面を見ることになり、書いてあることを読み、事前に文書を用意していたことに真剣さも感じとるのです。こうして静かに話し合うことになります。

事前に伝えたいことを書く、書いたものをもって、話し合う。仕事上でも、シビアなことが3度ほどありましたが、これで事がうまくいかなかったということは、個人的にはないですね。

ただし正面きって争う、というより、闘わなければいけない時もある。自分の人間としての尊厳、精神性を冒されるような場合です。いつでも闘えるよう、知識武装が欠かせません。

2022年3月14日（月） 曇り

昨夜からの雨は明け方にやんだ。今日はこのまま曇り、そして気温はなんと21℃の予報。たしかに外へ出ると、雨上がりの湿気をふくんだ生暖かい空気。まもなく春本番。

ー 瞬間の判断 ー

時々ファシリテーターを頼まれることがあります。トークセッションや交流会など、さまざまですが、どれも即興性の要る場面です。

今日のessasisで話したのは、人間の〈読にとり〉能力についてでした。それにつながることで、今から5、7年前にファシリテーターを担当した交流会のことを、その後もふとした時に思い返します。“あの表情に気づいてよかった…”と。

組織やグループで社会で多様に活躍する女性たちの交流会、ひとしきり各団体・グループの紹介が終わって、自由なスピーチ、発言の時間に入ってからのことです。

自主的に、あるいはこちらで指名し、各自壇上にあがって思いおもいにコメント。そして時間も残りわずか、「他にどなか…」と声をかけるも、手はあがらず、左右に目を動かして、ある一人に目がとまり、とっさに「〇〇さん、いかがですか？」。

こう促しても、だいたいはしり込みする人が多い。でも、ある意味、“そう、わたしにふってくれなければ…”というような表情で、その方はすぐに壇上へ向かって来られた。場をゆずり、他のみなさんと同じ位置で話を

すると、なんとも流暢に、まるで予め原稿を用意していたようにお話された。聴きながらも、“よかった、とりこぼすことをしないで…”と胸をなでおろしたものです。

女性経営者が集う団体の副会長、会長と一緒に参加され、会長が目立つキャラでもあって、どうしても陰にまわりがち。でもご本人も一人の経営者、語るべきものはたくさん持たれているわけです。

もしあの時ふらなかったとしたら、ご本人にはもやもや感が残ったことでしょう。わたしが恨まれるのはまったく問題ありませんが、それよりも、団体活動への意欲に影響したのではないかと思ったりするのです、考え過ぎかもしれませんが。

でも、人間の心境の変化って、意外とこういうことから生れるものです。

2022年3月16日（水） 晴れ

朝からよく晴れている。予報では晴マーク一つ、でも黄砂が飛んでくるとか。外を歩くのはなるべく少なくしたい今日この頃。

－ 15%の中に －

大国による暴挙に唖然として、リアルタイムで戦況が伝わりだしてしばらくした時、日経の本の広告に、『戦争は女の顔をしていない』が載りました。今ふたたび注目されている本、調べてみると、コミックも出ている。

今朝のessaisでも話しましたが、先週からなんとなく〈冴えない〉、その心持ちは、日々伝えられる世界情勢のせいかしらと昨夕、思いあたりました。野蛮と悲惨なリアルが、そのまま世界を映像として駆け巡る。

「プロパガンダの催眠効果に抗することが可能な率、10～15%」（セルゲイ・チャコティン1940年）。大半の人は影響を受け、特に若者が顕著と言っています。

あわせて、「無知は、たやすく暗示にかかる大衆を形成する最良の媒体。抵抗の可能性は主に文化水準によって左右されることは明らかで

昨日の日経夕刊の「あすへの話題」。筆者の作家が嘆きます。「石器時代から行われてきた（戦争という）この野蛮を人間はまだやっている。（略）どうしてやめられないのだろう、と考えている」。

やめられないのは、それは人間だから、なんでしょうね。「チャコティン」が言ったことも、たぶん、現在もこれからもあてはまることだと思います。

無知に陥らないよう、文化（人間の精神的生活にかかわる物心両面の成果）にふれて、知的武装をし、「15%」の中に入っておきたい、そう想う2022年3月半ばです。

2022年3月18日（金）

立春前に買った「ホンコン」、気がつけば、15センチほど育っています。

2022年3月18日（金） 雨

今日は一日雨の予報、今夜は満月なのに残念。でも花粉は少ないから、外にはでやすい。彼岸の入り、暑さ寒さも彼岸まで。

－ ゆったりとした時間 －

立春を前に買った観葉植物・ホンコン、気がつけばずいぶん伸びていて、15センチは高くなっています。陽もささない室内でもしっかり育っている、さすが観葉植物。

一時はよく通った京都北山の府立植物園、「インバウンド」最盛期に足が向かなくなり、その後は「コロナ」で、久しぶりに行ったのは昨年7月。21日に「まんえん防止」が解除になることだし、今年の桜は北山へいこ

のんびり桜をめでる国内外の状況でないといえば、ないのですが、それでも皆それぞれに日常がある。春本番がくるかこないかの、この3月中旬から下旬は、年度の変わり目ということもあってか、なんとなく、心がざざめきます、人によっては。

こういう時は〈われにかえる〉時間をもつのが一番。個人的には森や林、緑の多いところを歩くのが、その時間。京都へ行くことはなくなりましたが、身近なところで、小刻みに歩いています。

なんどなく書いている、「デフォルトモード・ネットワーク」＝安静にしているときに活発になる脳の部位。こころの安定、回復、ひいては良好な人間関係づくりにもつながっているそう。

季節的にも、いま起こってい内外の事態を目の当たりにしている上でも、なんとかゆったりとした時間をもつといたしましょう。

2022年3月21日（月） 春分 曇⇔晴

ここ数日またすこし寒い。今日は春分、花だよりも、梅から桜へ。今日で「まんえん防止」は解除、今では解放感はほぼなし。アメリカでは新しい変異株の感染が増加しているとか。対策はずっと必須。

－ 目をこらして －

キエフから日本語で現況をつたえる彼の表情がだんだんとこわばってきました。阪神あわじ大震災に遭った彼、自分の武器は日本語だと言って、テレビメディアに積極的に出ています。

最初みた時には、日本語がほぼネイティブなので、びっくりした。淡々と状況を伝える姿が、かえって現実の厳しさを想像させました。彼は言う、自分たちが悲惨な結果に終わるのは覚悟のうえだけど、世界のみなさんも何もなしに終わることはないでしょう、と。そう、そうに違いありませ

今日の日経新聞の「核心」で論説委員長は次のように論説をむすんでいました。「コロナ禍からウクライナ危機。この2年間で世界の大変動を目撃してきた我々は、これまでは当たり前と信じていた枠組みの揺れを感じている。それは歴史が逆流するような感覚にも似る」。

たぶん50代以上は同じように感じているのではないでしょうか。論説は、「秩序の揺れがいずれ収拾に向かうのか、あるいは中長期の混乱の時代に突入するのか。何が変わり、何が変わらないのか。しっかりと目をこらしていきたい」と終わっています。まったく同感、同じ心境です。

2022年3月24日（木） 晴

夜のあいだに雨がふり、今朝は澄んだ空、陽ざしがキラキラ。大阪は昨日桜の開花宣言あり。桜の季節到来、今日彼岸明け。

－「正しい発声」－

昨夜のウクライナ大統領の国会演説、最初から全部視聴した人はどんな感想をもったでしょう。ニュースの中でインタビューに応えた議員たちからは平たんな印象しか受けませんでしたが。

２年前の「コロナ」元年に音声にめざめ、その秋に偶然みかけたチラシで「音訳」の世界に足をつっこみ、おかげで、発声やアクセントに少し関心をもつようになりました。

演出家の「鴻上尚史」の書いた『発声と身体のﾚｯｽﾝ』という本を広告で知ったのは昨年の秋です。図書館で借りて、つまみ読んだのですが、著者がさかんに言っていたことがあります、なぜ皆もっと自分の声を意識しないんだ、特に政治家は！

容姿や外観は気にするのに、声には意外と無頓着。たしかにそういえばそうです。鴻上さんのいう「正しい発声」、それは「自分の感情やイメージをちゃんと表現する声をもつこと」。

ときどき人から声を褒められることがあります。たぶんわりと「正しい発声」をしているからじゃないかと不遜ながら思いました。

かつ表情にもでる。そういった意味では自分の〈想い〉をある程度身体表現にしている。いいといえば、いいのですが、嘘はつけないということでもあります。実際、何度かそう言われたこともあります。

鴻上さんが本の中で読者にハッパをかけていました、「自分の声を自覚し、他者の声と出会う。自分の声の可能性を広げましょう！」。

2022年3月27日（日） 桜咲く

大阪市内の町の公園には桜がけっこうあって、小さな花見ができます。まだ「コロナ」、そして「ウクライナ侵攻」と、世界的歴史的事態が続いています。今こうして桜の開花を話題にできることの意味を考えますね。

2022年3月28日（月） 曇⇔晴

先週土曜は予報ほど荒れた天気にはならなかった。昨日は午後から晴れて、今日は曇りがち。大阪市内の桜はほぼ5分咲、今週後半が一番の見頃か。

－ 今年の動き －

今日のお昼前に所用があって梅田へ行ったのですが、通りなれた地下街や商業施設の見慣れたお店がいくつか閉店していました。業種業態がまったく変わってお店もあります。「コロナ」3年目、社会の変化がはっきり目にみえてくるのはこれからのようです。

何事も2年半から3年目が次の段階への扉。そこへさらに「ウクライナ侵攻」、先週の日経フィナンシャルタイムズの論考には今回の事態で暗号通貨が広く陽の目をみるようになると書いてありました。

シンギュラリティーに到達するといわれる2045年まであと23年。今回のことと、むこう4、5年の動き、展開が、歴史の分岐、未来への分岐になりそうです。

さて、まずは今年。今年の世界の動き、流れには目をこらしていきたいものです。個々人の動き、未来にとっても、重要な環境条件ですから。
10数年前の創業塾で「時流×自流のマネジメント」を何度かテーマに掲げたことがありましたが、今あらためて大事なテーマかもしれません。

とにかく、自他ともの動きに注目、観察。

2022年3月29日(火)　　大阪城公園、友人とお昼ごはんに少し散歩